

トラック輸送情報（平成28年4月分）

平成28年6月30日
総合政策局 情報政策課 交通経済統計調査室
担当：赤坂、小野、桑原 内線28723
直通：03-5253-8346
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

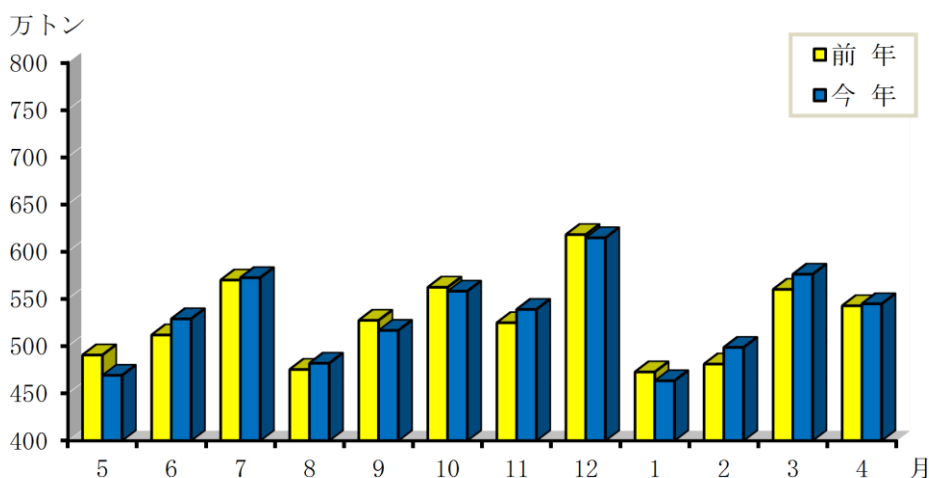
(1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、5,495,523トンで、前月と比べ総輸送量が約266千トン減少したため、前月比95.4%（季節調整済み101.0%）となり、前年同月との比較では、約68千トン増加したため、前年同月比101.2%の実績であった。

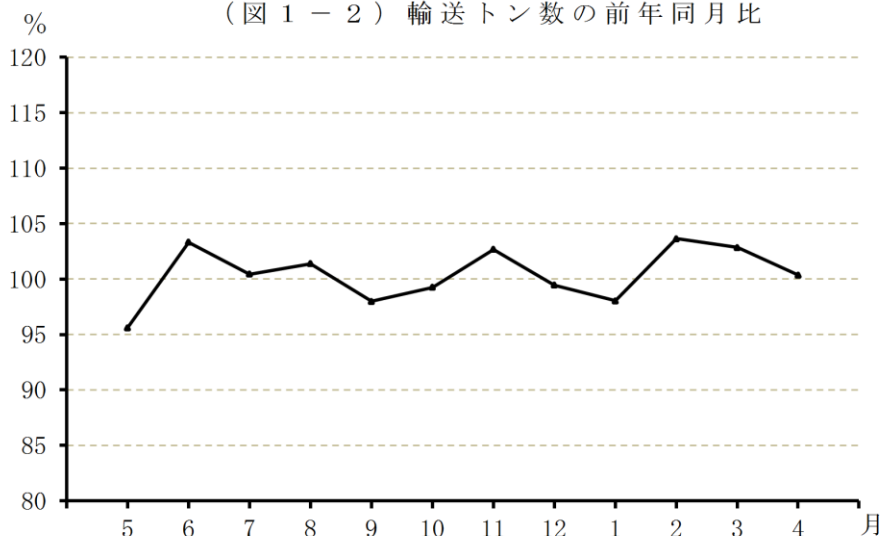
なお、平均稼働日数は24.1日で、前月と比べ0.9日減少し、前年同月との比較では、0.1日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、228,030トンで、前月と比べ約2千トン減少したため、前月比99.0%となり、前年同月との比較では、約4千トン増加したため、前年同月比101.7%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

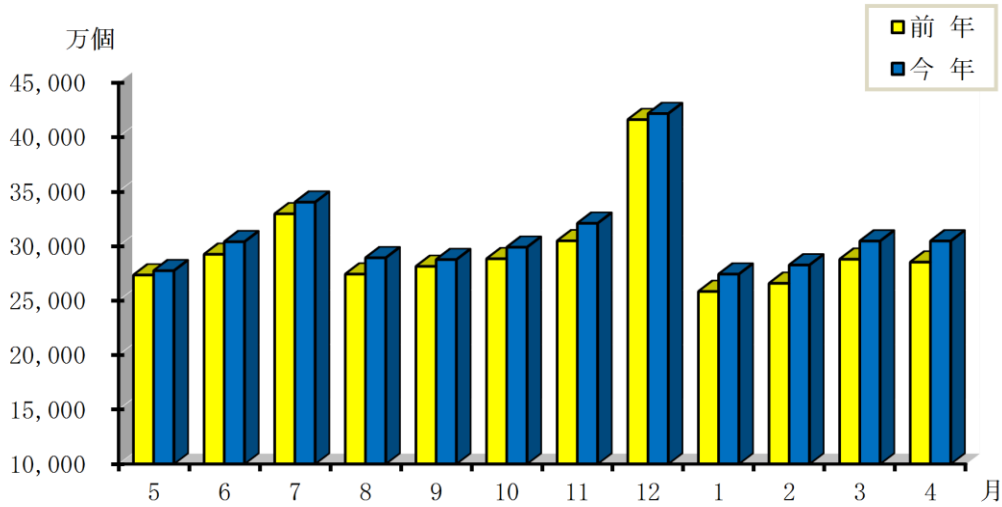


(2) 宅配便の概況

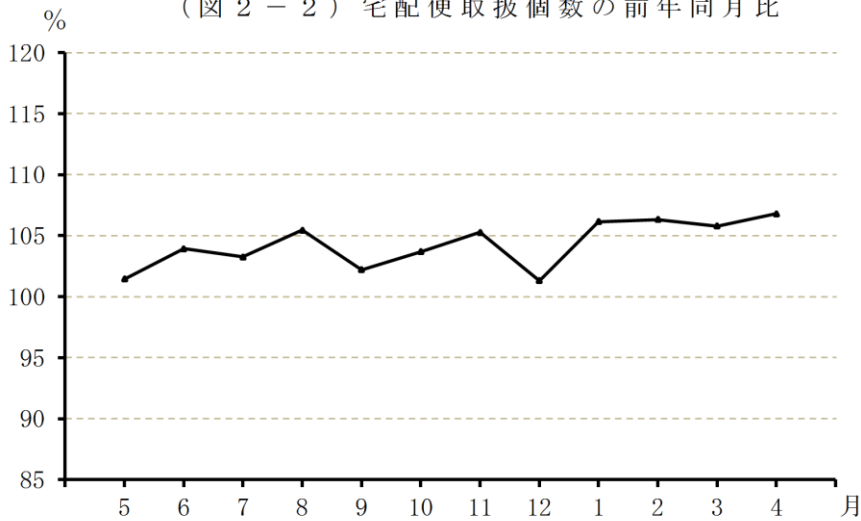
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 304,646 千個で、前月と比べ 約 64 千個増加したため、前月比 100.0%(季節調整済み 98.0%)となり、前年同月との比較では、約 19,398 千個増加したため、前年同月比 106.8%の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

調査対象 25 社 (24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社) は、前月との比較で見ると、品目別トータルでは、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。品目ごとでは、「機械」、「日用品」について工場・生産地からの貨物減が主な減少要因となっている。地域別では、「神奈川」、「関東」、「中部地方」、「中国」の各地方で貨物減となっている。

前年同月との比較で見ると、品目別トータルで輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。品目ごとでは、「機械」について工場・生産地からの貨物減が主な減少要因となっている。地域別では、「関東」、「中国」であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因
	著 増	増	変 ら ず	減 減			
前 月 に 比 べ て	農水産品	1		14	1	2	
	金属製品			14	7		中部地方
	機 械			13	7		機械部品
	化学工業品		2	14	6		神奈川、関東、愛知
	繊維工業品		1	16	5		
	食料工業品		4	13	3		4, 7
	日 用 品		2	11	9		神奈川、関東、中部、中国
	そ の 他	1	1	13	5	1	関東
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	2	2	12	1	1	野菜
	金属製品		1	16	4		中国
	機 械	1	1	11	7		機械部品
	化学工業品		1	15	5	1	愛知、大阪
	繊維工業品		2	15	5		関東
	食料工業品		4	13	3		神奈川、関東、中部、中国
	日 用 品		1	15	6		
	そ の 他		3	15	3		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者818社/調査対象事業者数1,008社)の輸送量は、前月比 92.5%、前年同月比 96.0%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	96.0 %	98.9 %	94.3 %	93.6 %	88.9 %	98.7 %	94.7 %	98.0 %	102.4 %	92.2 %	89.5 %	
前 月 比	92.5 %	97.6 %	95.1 %	90.5 %	88.3 %	92.8 %	89.1 %	88.0 %	95.4 %	88.5 %	88.1 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況(各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比 97.6%、対前年同月比 98.9%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「セメント」が、季節的需要増により「化学肥料」、「日用品」が、また、「穀物」、「木材」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「その他の農産物」、「水産品」、「揮発油」、「その他の石油製品」及び「廃棄物」が、また、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比 95.1%、対前年同月比 94.3%であった。品目別では、「穀物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「紙・パルプ」が、季節的需要減により「その他の石油製品」が、景気の影響による貨物減により「砂利・砂・石材」が、また、「木材」、「食料工業品」の輸送量が減少したと答える事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比 90.5%、対前年同月比 93.6%であった。品目別では、季節的需要減により「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比 88.3%、対前年同月比 88.9%であった。品目別では、「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「取り合せ品」が、また、「木材」、「金属製品」、「揮発油」及び「その他の石油製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比 92.8%、対前年同月比 98.7%であった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送状況については、対前月比 89.1%、対前年同月比 94.7%であった。品目別では、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送状況については、対前月比 88.0%、対前年同月比 98.0%であった。品目別では、季節的需要増により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「石炭」、「鉄鋼」及び「その他の石油製品」が、また、「金属製品」、「機械」及び「その他の窯業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比 95.4%、対前年同月比 102.4%であった。品目別では、季節的需要増及び景気の影響による貨物増により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「工業用非金属鉱物」、「機械」、「紙・パルプ」及び「廃棄物」が、季節的需要減により「野菜・果物」、「日用品」及び「動植物性飼・肥料」が、商社・問屋からの貨物減により「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比 88.5%、対前年同月比 92.2%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」が、また、「紙・パルプ」、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「セメント」が、工場・生産地からの貨物減により「機械」が、また、「木材」、「鉄鋼」、「その他の石油製品」及び「取り合せ品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比 88.1%、対前年同月比 89.5%であった。品目別では、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「その他の農産品」、「取り合せ品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は増加傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
品目		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道	道	道	信	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増	3	3					2		1	1	10
	減			1				1		2		4
2. 野菜・果物	増		1					1	2	5		9
	減	1	2						6	3		12
3. その他の農産品	増								1			1
	減	2									3	5
4. 畜産品	増											
	減									1		1
5. 水産品	増									1		1
	減	2	1					1	1	1		6
6. 木材	増	3						2		1	1	7
	減	1	3		2			3		3		12
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増											
	減	1	1					2				4
9. 金属鉱物	増	1			1							2
	減											
10. 砂利・砂・石材	増	11						1	1	4		17
	減	4	4		1	1		2	2	3		17
11. 工業用非金属鉱物	増		1									1
	減	1	1						2	1		5
12. 鉄鋼	増	2			1				3		1	7
	減	1	1		2			3	2	3	1	13
13. 非鉄金属	増	1		1						1		3
	減			1				1				2
14. 金属製品	増				1			1		2	1	5
	減				4	1		3	1	2		11
15. 機械	増		1				1	1	1		1	5
	減	2	2	3	1	1	1	4	3	5		22
16. セメント	増	5	1									6
	減	2			1			1	1	9		14
17. その他の窯業品	増		1		1				1			3
	減	1			1	1		2	1	1		7

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計	
18.	揮発油	増											
		減	2	1		2	1		1	1	1	9	
19.	その他の石油製品	増	1						1			2	
		減	6	2		2	1		5	1	3	20	
20.	コークス・ その他の石炭製品	増											
		減											
21.	化学薬品	増							1			1	
		減	1	1	1							3	
22.	化学肥料	増	2	1		1			1			5	
		減				1			1	1		3	
23.	その他の化学工業品	増	1			1		1	1			4	
		減		1	1		1	1	2	1		7	
24.	紙・パルプ	増				2		1			2	5	
		減	1	2				1	1	5		11	
25.	繊維工業品	増					1		1			2	
		減		1						1		2	
26.	食料工業品	増		1	1	2		3	4	5	6	1	23
		減	1	4		1		1	2	2	3	1	15
27.	日用品	増	2	1		1		1	3	1	3	2	14
		減		1	1	1	1	3	3	6	3		19
28.	その他の製造工業品	増		1								1	
		減			1		1		1		1		4
29.	金属くず	増									1	1	
		減		1								1	2
30.	その他のくずもの	増							1			1	
		減											
31.	動植物性飼・肥料	増	3	2					1			6	
		減	3	2						2	1	8	
32.	廃棄物	増	1	1					1	1		4	
		減	3	1			1		1	3		9	
33.	輸送用容器	増	1									1	
		減											
34.	取り合せ品	増	1		1				1	1		1	5
		減	1	2		2		1		1	2	3	12
35.	その他	増	1					2	3		9	15	
		減	3	3	2	2	1	4	9	1	7	32	